

(2) 自然環境と生物

① ^{れきがわら}礫河原

中流域は、河川の両側に段丘の崖地が形成され、那珂川およびその支川ではその間の川沿いに礫河原が広がっている。礫河原にはカワラニガナやカワラハハコなどの河川の攪乱に依存する河原植物と呼ばれる植物が生育している。中流域の全区間で広い砂礫地や砂州が多く、こうした場所で夏季にイカルチドリ、コチドリが繁殖する。

中流域の河川敷は草地性の昆虫類にとっても良好な環境になっている。

茂木町の大瀬橋付近の河原や草地では、カワラケツメイを食草にするツマグロキチョウ、礫河原ではカワラバタ、那須烏山市の下野大橋や那珂川町の新那珂橋の礫河原ではオサムシモドキが見られる。ツマグロキチョウは、関東では既に希少な種となっているが、那珂川においては比較的多く見られる。

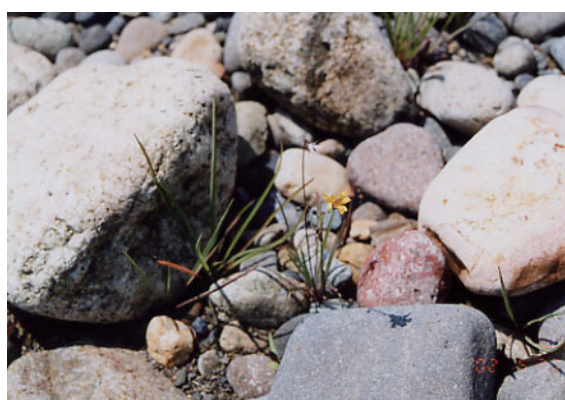
河原特有の昆虫として、他にアイヌハンミョウ、ヤマハマベエンマムシ、カラカネハマベエンマムシ、マクガタテントウ、ココノホシテントウ、アイヌテントウ、ツメアカマルチビゴミムシダマシ、キバネアシプトマキバサシガメなどが挙げられる。



特徴的な礫河原（茂木町 4月）



カワラハハコ（キク科）



カワラニガナ(キク科)

(写真：(株)建設環境研究所)

図 4-30 中流域の礫河原の生物



イカルチドリ（チドリ科）*



チドリ類の卵
(写真：建設環境研究所)



ツマグロキチョウ（シロチョウ科）**
(写真：小菅 次男氏)



カワラケツメイ（マメ科）
(ツマグロキチョウの食草 写真：建設環境研究所)



礫河原と山地に囲まれた那珂川中流域（茂木町生井地先 4月）

図 4-31 中流域の礫河原の生物と景観

*イカルチドリ（チドリ科）

川の中流域上部の砂礫河原や中州に生息する。主に砂利の多い河原で繁殖し、特に中流域の礫の多いところを好む。

**ツマグロキチョウ（シロチョウ科）

食草はマメ科植物のカワラケツメイに限定される。カワラケツメイは河原の石ころが転がっているような草地によく見られる。年に5、6回発生し、秋発生は成虫越冬する。



カワラバッタ (バッタ科) *
(写真: 榎日水コン)



アイヌハンミョウ (ハンミョウ科)
(写真: 佐藤光一氏)



キバネアシブトマキバサシガメ
(マキバサシガメ科)
(写真: 栃木県立博物館)



アイヌテントウ (テントウムシ科)
(写真: 栃木県立博物館)



マクガタテントウ (テントウムシ科)
(写真: 佐藤 光一氏)

図 4-32 中流域の礫河原の生物

*カワラバッタ (バッタ科)

後羽の内側が鮮やかな青色をしている美しい種。大きな河川の砂礫地に生息し、体色は周囲の砂礫の色と見分けが付きにくい保護色となっている。近年河原の草地化により全国的に急激に減少している。